

全校集会 校長講話

令和元年6月22日（土）

先日の市中体連総合大会では、どの部も粘り強い戦いを見せてくれました。特に、県大会に出場する、水泳部（3年男子）、バドミントン部（3年女子）の皆さん、誠におめでとうございます。県大会に出場するあなた方は本校の誇りです。大野中そしていわきの代表であるというプライドを胸に、私たちに勇気付けるような活躍を県大会でも見せてください。また、県大会という一段高い山から見える景色をぜひ楽しんできてください。健闘を祈ります。そして、最後の中体連となった3年生の皆さん、中学校での部活動お疲れ様でした。これからは、部活動とは少し距離を置いて、今後の進路や将来やりたいこと、そのために今やらなければいけないことをじっくりと考えて、できることから始めてください。1・2年生の皆さんは、新人戦や来年の中体連において、さらに良い結果を残したいならば、今までと同じことをやっているだけでは叶いません。何かを変える必要があるのです。何を変えたらいいのかは、各部でよく話し合ってください。また、一人一人が自分と向き合って考えてください。その際、「勝負はグラウンドやコートの中だけで決まるわけではない」ことを忘れないでください。

さて、市中体連が終わり、大野中も新たなステージを迎えています。今年は駅伝部の襷はつながるのでしょうか。3年生から生徒会のリーダーを引き継ぐことのできる1・2年生は誰になるのでしょうか。小さな学校の強みを生かして、ワクワクするようなチャレンジができる学校、一人一人の個性がさらに生かされるような学校にするためには、どんな改善が必要になるのでしょうか。生徒の皆さん、先生方、保護者や地域の皆さんと一緒に、試行錯誤するプロセスを楽しみながら、真摯に考えていきたいと思います。

大野中生の強みは、「粘り強いところ」「人の話をよく聞くところ」「自分の果たすべき役割を考え、周囲の人と力を合わせて行動できるところ」などです。課題は、「難しいことには失敗を恐れて挑戦しないこと」「調べたいことや知りたいことがある時、自ら進んで資料や情報を集めたり人にたずねたりしないこと」「家庭で読書をしたり、新聞を読んだりする習慣がないこと」です。残された中学校生活の中で、皆さんの礼儀正しさや誠実さといった強みをさらに伸ばしながらも、主体性を身に付け、「井の中の蛙」とならないためのチャレンジを、学校の中でも外でもぜひしてください。

最後に、来年度から県立高校の入試制度が大きく変わる話です。最大の変更点は、志願者全員に学力検査を課すことです。福島県教育委員会に対して、「全員に学力検査を課すことになったのはなぜですか。」と質問したところ、「志願者全員に学力検査を課すことによって、受験生の皆さんが3月までしっかり学習に取り組めるようにし、4月からの高校生活へ円滑に進んでいけるようにするためです。」との回答を得ました。この回答からは、各高等学校が生徒の学力に危機感を抱いていることが分かりま

す。皆さんの中には、高校受験や大学受験があることで、勉強は受験のためにするものだと思っている人も多いかもしれません。しかし、その考えは間違いです。その証拠に、多くの大人が皆さんの使っている教科書を読むと、「将来社会に出て仕事をし、自立した人間として生きるために必要な内容ばかりですね。」という感想を述べられます。つまり、学校での勉強や受験勉強で身に付く力は、将来に役立つと断言できるのです。そのためにも、高校や大学に入るためだけの勉強にならないようにしてください。先生方も皆さんが、生きて働く知識・技能、未知の状況で活用できる思考力・判断力・表現力、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性を養うことができるような授業、そして学校をつくっていきます。